

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/16		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587050301	科目番号 / Subject code	05870503
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	グループ・コミュニケーション (コミュニケーションの生物学・臨床医学) / Biology of Animal Communication and Clinical Medicine of Human Communication		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	岡田 二郎 / Okada Jiro, 田中 悟郎 / Tanaka Gorou, 川越 明日香 / Kawagoe Asuka, 徳永 瑛子 / Tokunaga Akiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	岡田 二郎 / Okada Jiro		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	岡田 二郎 / Okada Jiro, 田中 悟郎 / Tanaka Gorou, 徳永 瑛子 / Tokunaga Akiko		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	jokada nagasaki-u.ac.jp (岡田) goro nagasaki-u.ac.jp (田中) akiko0923 nagasaki-u.ac.jp (徳永) (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	環境科学部本館227室 (岡田) 保健学科5階 (田中) 保健学科5階 (徳永)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2762 (岡田) 095-819-7995 (田中) 095-819-7996 (徳永)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月?金 12:10?12:40 (岡田) 月?金 12:10?12:40 (田中) 適宜 (徳永)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	ほとんどの動物は、何らかの手段を用いて個体同士での情報のやり取りをおこなっているが、これが現代の人間社会における複雑なコミュニケーションの礎となっている。ヒトを含めた動物では、種特異的な動作、音声、化学物質などのシグナルが送り手から発せられ、それらが受け手の感覚器で受信される。このシグナルは中枢に運ばれ、識別され、次に受け手が起こすべき応答のプログラムが生成され、最終的に返信シグナルが発現する。この一連のプロセスは、必然的に生物学的な意義が存在していて、いずれも脳神経系の機能を基礎としている。また、シグナルの受信から、返信シグナルの発現という一連のプロセスにおいて、その一部の機能が障害されると、そのコミュニケーションは大きく変容する。本講義では、動物とヒトのコミュニケーションについて、その進化、多様性、生理機能、および障害に注目して学ぶ。		
授業到達目標/Goal	(岡田) 1) コミュニケーションの生物学的意義を理解し、その進化と多様性について説明できる(???) 2) 様々な動物におけるコミュニケーションの生理学側面について説明できる(??) 3) 自主的に学ぶ態度を身につける(??) 4) 与えられたグループ課題に対して、メンバー間で積極的かつ協調的に解決に取り組み、最善の結論を得るための態度およびスキルを獲得する(???) (田中・徳永) 1) 障害をもつ事例からヒトのコミュニケーションの多様な側面を学ぶ(???) 2) メンバー間で積極的かつ協調的に課題解決に取り組み、最善の結論を得るための態度およびスキルを獲得する(???)		
授業方法 (学習指導法) /Method	PCプロジェクタ、クリッカー等を利用した講義の他、講義内容に関連するグループ課題等をおこなう。		
授業内容/Class outline/Con	本講義の前半(田中・徳永担当)ではヒトのコミュニケーションとその障害について臨床的視点から、後半(岡田担当)では動物のコミュニケーションにおける進化、多様性、生理機能について生物学的視点から学ぶ。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	事前学習を課すことがある。		
キーワード/Key word	(岡田) 行動、進化、多様性、脳神経系 (田中・徳永) 精神障害、発達障害、コミュニケーション		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	LACSに掲載する資料、配布資料等を用いる。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	予習課題(30%)、講義中のグループ課題(30%)と最終試験(40%)による。		
受講要件(履修条件)/Requirements	特になし		

アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks(URL)	特になし
学生へのメッセージ/Message for students	高校生物や一般書等から、動物の行動と生態、脳・神経系に関する予備知識があると良い。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回（10月5日・3校時）	オリエンテーション：精神障害とコミュニケーション（田中）
第2回（10月5日・4校時）	うつ病とコミュニケーション（田中）
第3回（10月12日・3校時）	コミュニケーションスキルトレーニング1（田中）
第4回（10月12日・4校時）	コミュニケーションスキルトレーニング2（田中）
第5回（10月19日・3校時）	オリエンテーション：生物のコミュニケーションとは（岡田）
第6回（10月19日・4校時）	動物コミュニケーションとその進化1（岡田）
第7回（10月26日・3校時）	コミュニケーションスキルトレーニング3（田中）
第8回（10月26日・4校時）	動物コミュニケーションとその進化2（岡田）
第9回（11月2日・3校時）	発達障害とコミュニケーション1（徳永）
第10回（11月2日・4校時）	発達障害とコミュニケーション2（徳永）
第11回（11月9日・3校時）	動物コミュニケーションの生理学的基礎（岡田）
第12回（11月9日・4校時）	昆虫の化学コミュニケーション（岡田）
第13回（11月16日・3校時）	コオロギの音声コミュニケーション（岡田）
第14回（11月16日・4校時）	小鳥の音声コミュニケーション（岡田）
第15回（11月30日・3校時）	講義の総括・最終試験（田中・徳永）
第16回（11月30日・4校時）	講義の総括・最終試験（岡田）

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 4, 金 / Fri 5
開講期間 / Class period	2017/04/06 ~ 2017/05/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587050501	科目番号 / Subject code	05870505
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	グループ・コミュニケーション (音表現とグループ・プロセス) / Music and Group Process		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	西田 治 / Nishida Osamu, 小原 達朗, 川越 明日香 / Kawagoe Asuka		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	西田 治 / Nishida Osamu		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	西田 治 / Nishida Osamu, 小原 達朗		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	osamu-n nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部本館 5 1 6		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	昼休み (事前にメールにてアポイントを取ること)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	音楽やスポーツ (身体活動) は、そのパフォーマンスをパフォーマー自身が演じる中で自己完結するものである。しかし、他者とのかわりにおいて見聞きする対象になり、相互の感性や意志のやり取りが生まれコミュニケーションが成り立つ。 本授業では、音を媒介としたコミュニケーションや身体を媒介としたコミュニケーションの実際について実現象や実践を通して体験し、実生活の中で活用できるようになることをねらいとしている。		
授業到達目標/Goal	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の精神性及び身体性の特性を理解し、自己を表現する際に生かすことができる(????)。 ・言語的表現を非言語的な表現にイメージし、具体的に行動化できる(?)。 ・芸術やスポーツに内在するコミュニケーションの多様な形について理解し、説明できる(?)。 ・音や身体を使って思いや意志を相手に伝えることができ、生活場面へ汎化させることができる(???)。 		
授業方法 (学習指導法) /Method	<p>本授業は、スポーツとコミュニケーション (前半) と音楽とコミュニケーション (後半) に分けて実施する。</p> <p>音楽とコミュニケーションにおいては、音によるコミュニケーションの可能性について理解し、その一端を経験することを目的とする。音楽療法の講義では、言語でのやり取りではなく、音あるいは音楽でコミュニケーションすることについて知的な理解を得ることを目的とし、ジャンベなどのハンドドラムと小物打楽器による即興演奏であるドラムサークルの講義では、実際に音でコミュニケーションをとる体験をし、それをディスカッションによって深めていく活動を行う。</p> <p>スポーツとコミュニケーションにおいては、人のからだの持つ表現性、しぐさの持つメッセージ、意図的なサインによる会話、スポーツ場面での様々な情報伝達などについて実践しながらコミュニケーション能力を身につける。</p>		
授業内容/Class outline/Con	<ol style="list-style-type: none"> 1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性 2 真似る細胞 (ミラーニューロン) ...ひとの脳の表現性 3 しぐさに込められた謎 4 サインに込められた意図 5 スポーツの中のコミュニケーション (その1) 6 スポーツの中のコミュニケーション (その2) 7 サインプレーの実践 8 授業の意図と概要 9 ドラムサークル1 音あそび (アイスブレイク) 10 ドラムサークル2 11 ドラムサークル3 12 ドラムサークル4 13 グループ音楽活動の意義 14 ドラムサークル5 15 ドラムサークル6 16 総括 		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	コミュニケーション 音楽 身体 スポーツ		

<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>参考文献</p> <p>『音楽療法士のしごと』 生野 里花 (著) 単行本: 255ページ 出版社: 春秋社 (1998/01)</p> <p>『音楽文化のすすめ?いま、ここにある音楽を理解するために』 小西 潤子 (編集), 志村 哲 (編集), 仲 万美子 (編集) 単行本: 264ページ 出版社: ナカニシヤ出版 (2007/03)</p> <p>『スポーツコミュニケーション』 東海林祐子 (著) 単行本: 187ページ 出版社: ブックハウス・エイチディ (2011/06)</p> <p>『身ぶりとしぐさの人類学』(中公新書) 野村雅一 (著) 単行本: 225ページ 中央公論社 (2002/05)</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>レポートなどの提出物 70パーセント 講義時のワークシート 30パーセント</p>
<p>受講要件(履修条件)/Requirements</p>	
<p>アクセシビリティ/Accessibility</p>	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
<p>備考(URL)/Remarks(URL)</p>	
<p>学生へのメッセージ/Message for students</p>	<p>音楽やスポーツの得手・不得手は全く問わない。苦手な方の参加を歓迎する。</p>
<p>授業計画詳細 / Course Schedule</p>	
<p>回(日時) / Time(date and time)</p>	<p>授業内容 / Contents</p>
	<p>1 心はどこにある?...ひとのからだの表現性</p>
	<p>2 真似る細胞(ミラーニューロン)...ひとの脳の表現性</p>
	<p>3 しぐさに込められた謎</p>
	<p>4 サインに込められた意図</p>
	<p>5 スポーツ中のコミュニケーション(その1)</p>
	<p>6 スポーツ中のコミュニケーション(その2)</p>
	<p>7 サインプレーの実践</p>
	<p>8 授業の意図と概要</p>
	<p>音あそび(アイスブレイク)</p>
	<p>カードを用いたグループ作曲</p>
	<p>音の風景</p>
	<p>音の風景と音楽</p>
	<p>共に奏でることについて</p>
	<p>踊ることと音楽について</p>
	<p>振り返りと講義の総括</p>
	<p>受講生による振り返りの発表</p>

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 4ク ォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/11/28 ~ 2018/02/02		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587050701	科目番号 / Subject code	05870507
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	グループ・コミュニケーション (リーダーシップの問題と解決策) / Problem of the Leadership, and the Solution		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	前田 裕介 / Maeda Yusuke		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	前田 裕介 / Maeda Yusuke		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	前田 裕介 / Maeda Yusuke, 成瀬 尚志 / Naruse Takashi		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟43 / RoomA-43		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会、教育、経済、薬、水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	maeday nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する場合は を@に変更して送信してくだ さい)		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部新館2階 (254-1)		
担当教員TEL / Tel	095-819-2773		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールで相談のこと		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	自身の対人世界のありようと対人関係スタイルの成り立ちを吟味し、共に生きる関係構築の方法を 実生活の中で模索することをねらいとしています。また、将来、国際社会のリーダーとなるために 、自らの成長につながる「気づき」を得ると共に、リーダーシップに必須のコミュニケーションの 基礎を学びます。 主に、前半は、リーダーシップに必須のコミュニケーションの条件について学びます。 後半は、身近な生活におけるリーダーシップの課題を抽出し、その解決策について学習していきま す。		
授業到達目標 / Goal	(カッコ内は、対応する全学モジュール目標の番号) ・自分の対人関係スタイルを分析することができる(?, ?, ?) ・グループ内での役割を明確にし、リーダーシップを発揮することができる(?, ?, ?, ?) ・調べたことについて、個人あるいはグループプレゼンテーションを適切に行うことができる。(? 、?, ?, ?) ・リーダーシップ理論の変遷を記述することができる。(?, ?) ・コミュニケーションのもつ機能について説明することができる。(?, ?) ・ディベートを通して、コミュニケーション力を向上させることができる。(?, ?, ?) ・長崎に目を向け、課題を明らかにすることができる(?, ?)		
授業方法 (学習指導法) / Method	様々な対人関係のあり方を学びながら、リーダーシップやコミュニケーションについて学習します 。講義と演習(グループ活動、プレゼンテーション、ディベート等)を随時取り入れていきます。 そのため、それぞれの作業に必要な内容を事前に準備することを必須とし、授業外課題として成績 評価の対象にします。		
授業内容 / Class outline / Con	第1回は、オリエンテーションを行い、授業の概要と本学における教養教育の意義について振り返り ます。 第2回と第3回は、「人に伝える」というテーマで自己紹介のプレゼンテーションを行います。 第4回?第8回は、「人と関わる」というテーマで人との関わり方や、コミュニケーションの方法、リ ーダーシップの変遷について学習します。 第9回?第13回は、「関係の中で生きる」というテーマで実際に日本や世界で活躍する人を取り上げ 、まとめます。また、もしもその人が長崎という土地で活躍することになった場合、どのような課 題があり、それを解決するための方法について考えます。 第14回は、前半と同じ「人に伝える」というテーマで将来、活躍する自分を創造し、プレゼンテ ーションを行います。 第15回は、これまでの定期試験を行い、第16回は、テストの振り返りと授業全体の総括を行いま す。		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	授業外学習の課題として、予習レポートを課します。毎回の授業は、予習をもとに展開されますの で、しっかりと臨んでください。		
キーワード / Key word	自己理解、対人関係、リーダーシップ、コミュニケーション、キャリア、長崎県		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は指定しません。使用する教材は、その都度お知らせします。 参考資料： 朝日新聞『フロントランナー』 高橋恵子(2010)『人間関係の心理学』、東京大学出版会 相川充・高井次郎編著(2010)『コミュニケーションと対人関係』、誠信書房 山口裕幸(2011)『コンピテンシーとチーム・マネジメントの心理学』、朝倉書店 海保博之(2011)『わかりやすさとコミュニケーションの心理学』、朝倉書店 岩崎夏海(2009)『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら 』、ダイヤモンド社 飯田泰之(2016)『地域再生の失敗学』、光文社新書		

成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業外課題の提出(2点×7回)+授業外課題のルーブリック評価(3点×7回)+プレゼンテーション(20点)+ピア評価(5点)+試験(40点)=100点のうち、60点以上を合格とします。 授業外課題のルーブリック評価は、毎回25点満点に0.12をかけて3点満点に換算をします。
受講要件(履修条件)/Requirements	授業外学習の課題として、予習レポートを課します。毎回の授業は、予習をもとに展開されますので、しっかりと臨んでください。
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考(URL)/Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	
授業計画詳細/Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
第1回	月 日(金) オリエンテーション
第2回	月 日(金) 人に伝える(1) *自己紹介プレゼンテーション(1人1分)
第3回	月 日(金) 人に伝える(2) *自己紹介プレゼンテーション(1人1分)
第4回	月 日(金) 人と関わる(1) *自己紹介のまとめ、様々な対人関係とは
第5回	月 日(金) 人と関わる(2) *言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションとは
第6回	月 日(金) 人と関わる(3) *身近なリーダーシップ行動を探そう
第7回	月 日(金) 人と関わる(4) *リーダーシップ理論の変遷
第8回	月 日(金) 人と関わる(5) *リーダーシップのまとめ
第9回	月 日(金) 関係の中で生きる(1) *ディベート準備(徳川家康 vs 織田信長、宮崎駿 vs ウォルトディズニー)
第10回	月 日(金) 関係の中で生きる(2) *ディベート(徳川家康 vs 織田信長、宮崎駿 vs ウォルトディズニー)
第11回	月 日(金) 関係の中で生きる(3) *私にとってのフロントランナー
第12回	月 日(金) 関係の中で生きる(4) *フロントランナーが長崎県で活躍するための課題とは(課題の抽出)
第13回	月 日(金) 関係の中で生きる(5) *フロントランナーが長崎県で活躍するための解決策とは(解決策の提示)
第14回	月 日(金) 人に伝える(3) *フロントランナーとしての私
第15回	月 日(金) 定期試験
第16回	月 日(金) まとめと振り返り